10　高千穂名所図会　吉田初三郎

一巻

大正十三年（一九二四）
絹本着色
五〇・四×二二五・八

街道が整備され人や物の行き来が盛んになった江戸時代には、名所図会と呼ばれるいわば旅行ガイドブックのような地誌が数多く出版された。これは各地の名所旧跡や景勝地の沿革を鳥瞰図などの図入りで解説したものである。そうした名所図会のイメージを引き継ぎながら、江戸時代以上に鉄道や船舶の交通網が張り巡らされた近代日本にふさわしい新たな名所図を生み出したのが吉田初三郎（一八八四～一九五五）であった。初三郎は、上空から俯瞰したかのような鳥瞰図で日本全国の名所を描き「大正の広重」として人気を博した。京都三越呉服店友禅図案部に勤務した後、東京に出て白馬会洋画研究所に入り、岡田三郎助、中澤弘光に師事した。その後京都に戻ると関西美術院にて浅井忠、鹿子木孟郎に学び、そこで鹿子木の助言により商業美術の道に進むことを決意したという。

大正十三年（一九二四）、皇太子（昭和天皇）御成婚を記念して宮崎県西臼杵郡より献上された本図は、天孫降臨の地高千穂を鳥瞰で描いた名所図絵である。天照皇大神宮や天の岩戸、高千穂神社などを中心としながら、遠景には由布院や豊後富士、阿蘇山などの姿も見え、さらに彼方には広島の宮島や朝鮮の地まで小さく描かれている。鑑賞の手引きとなるように、金地の丸枠の中に墨書で各地の名称が細かく記されている。作者が数多く残した他の鳥瞰式名所図と比べると、奉祝にふさわしく霞や山々、また各地をつなぐ道路などに金泥が用いられている点が特徴的である。

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

名所絵から風景画へ――情景との対話

三の丸尚蔵館展覧会図録No.76

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社　東京美術
翻訳　黒川廣子
発行　宮内庁
平成二十九年三月二十五日発行

© 2017, The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shōzōkan